

## 平成26年度 山形県海面利用協議会 議事要点

- 1 開催日時、場所 平成27年2月18日（水）午後1時30分～午後4時  
ホテルリッチ&ガーデン酒田 スカンジナビア
- 2 出席者委員数 15名（委員19名中）
- 3 会長選出 会長に丸山委員が選出された。（会長代理には藤原委員が指定された）
- 4 議 事

### 報告事項

#### （1）平成26年度ハタハタ遊漁について

事務局：海区委員会指示の発動、指示の周知活動と巡回指導、遊漁の状況と資源への影響等を報告。

#### （2）平成27年度火光を利用した遊漁に係る光力制限について

事務局：平成26年度と同じ内容の光力制限に係る海区委員会指示が、平成27年度においても発動されることを報告。

#### （3）山形県の資源管理型漁業の取り組みと漁獲量の推移について

事務局：ヒラメ、タイ類、マガレイ、シロギス、ハタハタに係る漁業者の自主規制と漁獲水準・動向、県海面漁業調整規則による小型魚保護の規制内容等を報告。

#### （4）第36回全国豊かな海づくり大会について

豊海室：大会概要、基本理念、基本方針及び行事内容等を報告。

漁業者：海の漁業者による資源管理だけでは及ばないところがある。内水面の漁業者や農業の人たちにも、使っている水が海の資源に影響があるというアピールをお願いしたい。

遊漁者：川からの栄養が海に流れてきて、プランクトンの餌になって魚がたくさんいたのが、最近は魚も貝も少なくなってきた。こうした状況を、資料提供等を通じて上流部の人など全体的に理解してもらうことも必要。

豊海室：川や森の栄養がもたらされて豊かな海になっているということが大会テーマになっているので、4月以降、リレー放流などを通じて理解促進に取り組んでいきたい。

学識者：釣具業界からすると、鶴岡地域の海岸線は港の改築などで自然な釣り場の半分が破壊されている。放流についても弊害があり慎重にやっていただきたい。

豊海室：安全性と自然保護の両面がある。大きな課題であると認識しながら大会や行政施策を進めていかなければと思う。放流については本来生息していた魚が少なくなってきたので、資源の増大につなげるということを検討している。

遊漁者：シロギスが激減しているが、放流したヒラメから食べられたのではないか。

試験場：ヒラメが爆発的に増えているわけでもないし、ヒラメが食べるのはシロギスだけではないので、ヒラメの放流が大きな原因とは考えていない。

座 長：多種多彩な水域で生息する魚が庄内の食材の魅力をになっており、そうした環境を大切にするためにいろいろな機関で原因分析をしてもらいたい。農業者や林業者の協力も、豊かな食文化を維持する上で大切。今回の海づくり大会の意義はそういうところにあると思う。

遊漁者：昔は降った雨が山から海に流れるのに3日くらいかかったのが、今は朝早く降った雨は超特急で午前中に海に出るようになった。こうした近代化が原因だと思う。お金の掛らない簡単な人工藻場が基になって自然の藻場になるようなものを、この海づくり大会の中でがんばってみてはどうか。

座 長：農林水産業は一つの産業のはずだが縦割り、横の連絡・連携や、総論として議論をする場がない。海を守るために県全体で何をやるべきなのか

皆で議論することも、海づくり大会の一つの意義になると思う。

漁業者：以前は海に魚の内臓を捨てたりしていた。今はそういうものが無くなったため海に栄養素が無くなり、海藻とかも生えてこなくなったと思っている。海に魚の内臓を捨てることの影響調査を実験してみる価値があると思う。

試験場：海に捨てて良いとなるといろんなものを捨てられてしまう。それよりは山に木を植えて、山の栄養源を川を通じて海の沿岸域に流していくという活動が、長時間にわたって施肥していく一番無難な方法ではないかと思う。

座 長：いろんな議論を活発に行うきっかけにも、この海づくり大会がなるのではないかと思う。議論をする場を設けることについて県で配慮してほしい。

## 協議事項

### （１）海面利用調整について

事務局：事前に委員から寄せられた意見や２月３日に開催した地区協議会の状況を報告した上で、資源管理型漁業・小型魚保護について協議してほしいと提案。

漁業者：漁具・漁法が進歩した影響は大きいですが、シロギス、シタビラメ、クルマエビなどはやわらかい砂のところにいる。ところが河川環境が変わってしまい、河川の流速・流量が極端に減少して海に砂が出てこない。それから河口付近の汽水域も生態系に重要。有効な対策は無いのだが議論をする必要がある。

漁業者：南の魚が獲れるようになり、海が変わったことは確か。それに砂浜も少なくなっていて、岩場が多く出てきている。北の青森などでシロギスが獲れているのかは分からないが、その辺も含めて県で調査してほしい。

事務局：例えば、小型魚保護のため漁業者が取り組んでいる自主規制に対し、「それはいいですね」ということで遊漁の人たちも一緒になって共同宣言とか共同アピールにまとめ、シンボリックなこととして外に発信することはいかがですか。

学識者：海の漁業や釣りには分からないことだらけで、自分のような釣りのプロでさえ分からないものを、一般の人達に分かれといっても無理な話。行政も皆に周知するだけの力は無かった。希望として、冊子を作るとか周知する方法を具体的に皆で考えていってはどうか。

座 長：先程森林の話もあったが、地道な活動の結果として豊かな海になると思うので、皆さんの心に刻むようなアピールにできたらと思う。そういった意味ではこの協議会の存在意義をもっと高めていく必要があるのではないか。

遊漁者：一年に一回の協議会ではまた最初に戻る。事務局の担当は２年で代わる。誰が何を言ったかは残るが、具体的に変わったのはハタハタの引っ掛けを５年掛けて禁止にしたことくらいだ。

座 長：形骸化した会では何もそこから実りは生まれない。これだけの課題を解決するには年間３～４回は協議の場を設けて、きちんと議論する場を確保しないと課題解決につながらない。それから、農業者や林業者も含め産業横断的に環境を保全するという議論をする場があってもいいのではないか。

遊漁者：この協議会は漁業者とプレジャーボートのトラブルを回避するもので、私のところでは総会や掃除やお祭りなんかは漁師さんと一緒にやっている。

### （２）第３６回全国豊かな海づくり大会の機運を高めるために

事務局：事前に委員から寄せられた意見や２月３日に開催した地区協議会の状況を報告した上で、記念行事への参加などについて協議してほしいと提案。

漁業者：海づくり大会に関する情報を早めに教えて欲しい。 以上

平成26年度山形県海面利用協議会 出欠名簿 (H27. 2. 18)

氏 名		主 な 役 職	選任区分	出欠
丸山 至	まるやま いたる	酒田市 副市長	学識経験者	出席
富山 誠一	とみやま せいいち	公益財団法人日本釣振興会 山形県支部長	学識経験者	出席
佐藤 廣之	さとう ひろゆき	鼠ヶ関マリーナ ハーバーマスター	学識経験者	欠席
加藤 政敏	かとう まさとし	釣具店経営	学識経験者	出席
伊原 光臣	いはら みつおみ	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
鈴木 徳正	すずき とくまさ	山形県漁業協同組合 総代	漁業者代表	欠席
渡部 伸二	わたなべ しんじ	山形県漁業協同組合 総代	漁業者代表	出席
佐藤 峯男	さとう みねお	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
佐藤 清八郎	さとう きよはちろう	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	欠席
佐藤 初子	さとう はつこ	山形県漁協女性部 副部長	漁業者代表	出席
宗 雄司	そう ゆうじ	山形県小型船舶安全協会 会長 酒田小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
齋藤 賢作	さいとう けんさく	鶴岡小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
池田 栄	いけだ さかえ	遊佐小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
齊藤 純一	さいとう じゅんいち	遊漁船協同組合 理事	遊漁者代表	出席
五十嵐 博	いがらし ひろし	山形県庄内遊漁船協会 副会長	遊漁者代表	出席
後藤 憲二	ごとう けんじ	山形県セイリング連盟 会長 酒田市ヨット連盟 会長	海レク代表	出席
(代理 大瀧利勝)	おおたき としかつ	山形県セイリング連盟 副理事長 酒田市ヨット連盟 副会長		
相星 克文	あいほし よしふみ	山形県潜水協議会 会長	海レク代表	欠席
藤原 博之	ふじわら ひろゆき	東北運輸局山形運輸支局 次長	国の関係行政 機関	出席
内海 康德	うつみ やすのり	酒田海上保安部 警備救難課長	国の関係行政 機関	出席
(代理 戸由恵一)	とよし けいいち	酒田海上保安部警備救難課 専門官		

委員 19名 (うち出席 15名)

臨席者

氏 名	役 職
本間 直光	山形海区漁業調整委員会 委員
佐藤 一道	山形海区漁業調整委員会 委員
秋葉 弘毅	酒田市農林水産部農林水産課 課長
伊藤 将人	酒田市農林水産部農林水産課 課長補佐兼水産林務係長
本間 裕	鶴岡市農林水産部農山漁村振興課 主査
茂木 省三	山形県水産試験場 場長
松田 利春	全国豊かな海づくり大会推進室 室長
高澤 俊秀	山形海区漁業調整委員会事務局 海区漁業調整主査

臨席者 8名

事務局

氏 名	役 職
阿部 幸	山形県庄内総合支庁水産振興課 課長補佐 (漁業調整担当)
蛸井 昌二	山形県庄内総合支庁水産振興課 漁業調整主査
菅原 雅直	山形県庄内総合支庁水産振興課 月峯船長
齋藤 勝三	山形県庄内総合支庁水産振興課 機関長
佐藤 孝浩	山形県庄内総合支庁水産振興課 主任専門機関士
前田 恵美	山形県庄内総合支庁水産振興課 主任航海士
板垣 光太	山形県庄内総合支庁水産振興課 機関士

事務局 7名

出席計 30名